

# TEKNA 子供たち

イースター2009 坂下千郷

イースターを迎えるにあたって

昨秋は、1929年10月に起きた世界恐慌を髣髴させるような株価暴落の波が又もやNYのウォール街を皮切りに続々と全世界に波紋を広げ、工業生産の急落、企業の倒産、貿易の不振と進み、金融機関の危機にまで波及し、特に労働者の大量の首切りは、失業と貧困という大きな社会問題を引き起こし、先の見通しの立たない暗闇の世の中へと一変してしまいました。こんな時多くの人々は、どんなに救世主を望んだことでしょう。

20年代の終わりにアメリカを突然襲った大恐怖は、それ以前の20年代の物質的繁栄の時代に下地があったことはご承知の通りで、そんな時代を代表する小説、S. フィッツジェラルドによる「偉大なるギャツビー」を思い起こします。映画化もされ、舞台となったニューポートにあるマンション群（大邸宅）は、今でも偉大なるアメリカを象徴する産物として保存されています。20年代に到来した大量生産の実現で物質的豊かさを向上させた大衆消費社会は、多くの企業（特に自動車）に莫大な利潤をもたらし、その蓄財の余裕資金は株式市場に流れ込み、また当時の建築ブームや土地の投機ブームで大金を手にしようとする人々が増大しました。こういったアメリカ社会の欲望を反映する一方で、農業産物価格の低下や化学繊維の台頭、石炭にかわる電力と石油への新しいエネルギーの登場による不況産業の存在は、生活に困窮する人々を生み出し、所得格差による貧富の差が社会に拡大していきました。光と影の中で、空前の経済的繁栄をもたらしたこの時代は、利益の追求、経済的成功へと人々をかりたて、社会的評価も引き上げていきました。フィッツジェラルドが「一つの民族全体が享乐的になり、快樂を求めた」と述べているように、20年代は、繁栄によって、人間の欲望が顕在化した時代でした。そしてアメリカを未曾有の大不況が襲ったのです。

また、私はNY滞在中、NY州立歴史博物館で見たT. コールによる4枚の絵を思い出します。四方に巡らされた衝立てに順に「原始」（生物の誕生）、「ユートピア」（文明の繁栄）、「崩壊」（戦争）、「廢墟」と同じ所で繰り広げられた出来事を描いた4枚の絵が掛けられていました。その中で最後の絵「RUIN」は私の心に今でも残っています。「歴史は繰り返す」とよく言われますが、四枚目の絵は一枚目の絵と一見同じ風景画に見えますが、よく見ると、原始林に埋もれてかつての繁栄した文明の廢墟がかすかに見えるのです。人類の繁栄とか戦争と

はいったいなんだったのだろうと考えさせられる絵でした。

数年前の夏休みに、私は子供の自由研究のお供で、遺跡の発掘に参加したことがあります。私の住む府中市は多摩川が流れていて、かつての多摩川の古流域からも、水の利が豊かな土地柄で、海の時代の地層や石器時代からの遺跡が至る所で出土しています。当時 JR 線新駅開設による地域開発の計画が進められる中、発掘調査が行われ、一般市民の参加も募られました。当日現場に行くと、すでに竪穴住居や鎌倉時代の屋敷跡が一部出土していました。私達素人は決められた場所で小さな熊手と竹串をもって、炎天下、宝探しに没頭しました。府中市には4C~7C にかけての確認されている古墳も数出土しており、この近くにも小さい円墳がそれまで人目にもつかず、手付かずのまま残っていました。市職員の方々の発掘体験談を伺っているとノスタルジックな思いにかられます。それにしても地球上に文明が起こって一万年。現在に至るまでの人類の営みは地球の表土下、1~2m位の深さで繰り返されてきたことがわかりました。地球の深さ、宇宙の広さと比べるとなんと薄っぺらなこと。そんな所で、日本もアメリカの障りを受けたとあって、100年目にしてまた同じような金融不安の中で、私達は今慌てふためいているのです。確かに近代科学の進歩は高度なハイテク産業を生み出し、その恩恵に与る私達の生活は、豊かで快適なものになりました。しかし、人間の‘飽きなき欲望’は人間の心を益々傲慢にし、人間の幸福を経済の繁栄に求め、利潤の追求に明け暮れる限り、人間の過ちは何回も繰り返されるだけではないでしょうか？

バビロン時代に古代イスラエルの信仰者達は、なぜ自分達がこのような運命におかれているのか、改めて自分達の過去を振り返り、自らの生き方を見極めようとなりました。旧約聖書の伝道の書（コヘレトの言葉）7章14節に「順境には楽しめ、逆境には（自分を見つめて）考えよ」とあります。私達もこの逆境にいる現在、欲望で見失ってしまった人間本来の在り方を見つめ直し、今後どう生きていくか見極める必要があるでしょう。

イエス様は苦難の中でも誠実に生きる模範を私達に示して下さいました。そして私達人間の罪の身代わりに神の刑罰を受けて下さいました。「神の像」に似せて創造された人間は神の最高傑作です。私達人間は神と共にいた時代を慕い求め、再度神の救いの手に我が身を委ね、神の招きに与かりましょう。

2009年4月、イースターを祝して。